

優秀賞

「ペンギン、日本人と出会う」 川端裕人(文藝春秋)

情報メディア学科 今井勝斗

動物園や水族館でも大人気で、日本で一番人気な鳥類といっても過言ではない動物『ペンギン』、日本では商品のパッケージにも多く採用され、さらにペンギンを主役にしたスイス産アニメの続編が日本で新しく作られるほどの人気ぶりだ。では何故、彼らが生息している南半球から遠く離れた日本でこれだけ人気があるのか？彼らはいつ日本人と出会い、日本に来たのだろうか？この本はそんな疑問を読み手と一緒に解き明かしていく一冊である。

日本人とペンギンのファーストコンタクトは明治時代まで遡る。南極観測隊が南極への道すがらに捕獲したアデリーペンギンが日本人と初めて出会ったペンギンだ。その後、改めて南極でペンギンに会った南極観測隊は船の上で捕まえたペンギンに尺八を聴かせるなど、今では考えられない面白い事を行っている。

“生きた” ペンギンを初めて日本に連れてきたのは昭和時代の捕鯨船。ペンギンは国で待つ子供達へのお土産だった、動物園のペンギン奪い合い、日本で唯一コウテイペンギンを一般家庭で飼った人間…などの日本人とペンギンの過去の話の他に、現在のペンギンがどのような状況に置かれ、どんな問題の直面しているかペンギンの研究者の意見も交えてとても詳しく書かれている。

小難しい話はなく読みやすい文章なので、ペンギン好きでもそうでない方にも読んで欲しい一冊。きっと読了後にはペンギンの見方がガラリと変わっていることだろう。